

授業科目 NO. 811 母子保健指導実習

Maternal and Child Health Guidance Practicum

授業の形態： 実習

単位数（時間数）： 1単位（45時間）

開講年次・学期： 4年次・前後期

必修・選択の別： 選択・助産師選択コース必修

キーワード： 性と生殖、保健指導、集団指導、女性のライフステージ

1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学修目標

1) 一般目標（GIO）

性と生殖に関する保健指導に必要な知識と基本的技術を修得し、女性のライフステージに応じて必要とされる集団指導を実施できる。

2) 行動目標（SB0）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 集団指導の企画書を作成し、計画的に準備することができる。(②③)
- (2) 女性の主体性を生かし、意思決定できる方法を用いることができる。(①②)
- (3) 適切なプレゼンテーションができる。(②)
- (4) 対象と良好なコミュニケーションを図ることができる。(①②)
- (5) 保健指導を評価し、課題を検討できる。(①②③④)

3 学修内容

実習の内容は、実習要項に示す。

4 評価

評価項目	評価割合
定期試験成績	
実習成績	100%
レポート	
授業態度	
小テスト	
口頭試問	
その他	
合計	100%

(特記事項)

5 教育担当者

科目責任者： 山崎 智里

准 教 授 山崎 智里 (母性看護学・助産学)
 講 師 三反崎 宏美 (母性看護学・助産学)
 助 教 林 智美 (母性看護学・助産学)
 助 手 大嶋 舞香 (母性看護学・助産学)

6 教科書

母性看護学及び助産学で教科書として指定した本

7 推薦参考書

授業で指定した参考書、授業時の配布資料などを活用する。

8 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 助産学方法論 I～V の講義資料及び技術について復習しておくこと。
- 2) 周産期の診断及び助産実践に必要な知識について、
 - ・公益社団法人 日本産科婦人科学会、公益社団法人 日本産婦人科医会(編)産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 (https://www.jsog.or.jp/activity/pdf/gl_sanka_2020.pdf)
 - ・エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2020 (https://www.jyosan.jp/uploads/files/journal/JAM_guigeline_2020_revised20200401.pdf) にアクセスして、コンセンサスが得られた適正な標準的助産診断・管理法を理解し、企画書に反映させること。
- 3) リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、女性のライフステージに対応した課題に対する保健指導について、
 - ・日本助産師会 助産師の声明・綱領 (<https://www.midwife.or.jp/midwife/statement.html>) にアクセスし、内容理解の上、企画書に反映させること。
- 4) オリエンテーションまでに必ず実習要項を熟読し準備学修をして臨むこと。

9 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

評価表を基に到達度や課題をフィードバックする。

10 履修上の注意事項

- ・他の実習スケジュールを考慮し、計画的に準備をすること。
- ・実習中も、不足している知識の補足を自主的・積極的に行うこと。

11 オフィスアワー等

担当教員が実習時間に出向いた時に質問を受ける。それ以外の時間帯は、事前に都合の確認をすること。

山崎 E-mail : chisasa@kanazawa-med.ac.jp

三反崎 E-mail :

林 E-mail : haya-t7@kanazawa-med.ac.jp

大嶋 E-mail : ma11@kanazawa-med.ac.jp